

## 既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
1	アウレオバシジウム培養液 (アウレオバシジウム培養液から得られた、 $\beta$ -1,3-1,6-グルカンを主成分とするものをいう。)			黒酵母 ( <i>Aureobasidium pullulans</i> ) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は $\beta$ -1,3-1,6-グルカンである。	増粘安定剤	Aureobasidium cultured solution
2	アガラゼ			※	酵素	Agarase
3	アクチニジン			※	酵素	Actinidin
4	アグロバクテリウムスクシノグリカン (アグロバクテリウムの培養液から得られた、スクシノグリカンを主成分とするものをいう。)		スクシノグリカン	細菌 ( <i>Agrobacterium tumefaciens</i> ) の培養液より、分離して得られた多糖類である。主成分はスクシノグリカンである。	増粘安定剤	Agrobacterium succinoglycan
5	アシラーゼ			※	酵素	Acylase
6	アスコルビン酸オキシダーゼ	アスコルベートオキシダーゼ ビタミンCオキシダーゼ	オキシダーゼ V.Cオキシダーゼ	※	酵素	Ascorbate Oxidase
7	L-アスパラギン		アスパラギン	※	調味料 強化剤	L-Asparagine
8	L-アスパラギン酸		アスパラギン酸	※	調味料	L-Aspartic Acid
9	アスペルギルスステウス糖たん白質 (アスペルギルスステウスの培養液から得られた、糖タンパク質を主成分とするものをいう。)	ムタステイン		糸状菌 ( <i>Aspergillus terreus</i> ) によるブドウ糖、澱粉及び大豆ミールの発酵培養液を除菌し、硫酸アンモニウムにより分画した後、脱塩して得られたものである。主成分は糖タンパク質である。	製造用剤	Aspergillus terreus glycoprotein
10	$\alpha$ -アセトラクターテデカルボキシラーゼ		リアーゼ	※	酵素	$\alpha$ -Acetolactate Decarboxylase
11	5'-アデニル酸	アデノシン5'-リン酸	5'-AMP	※	強化剤	5'-Adenylic Acid
12	アナトー色素 (ペニキの種子の被覆物から得られた、ノルビキシン及びビキシンを主成分とするものをいう。)		アナトー カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	※	着色料	Annatto Extract
13	アマシードガム (アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		アマシード	アマ科アマ ( <i>Linum usitatissimum</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、室温時~温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Linseed gum Linseed extract
14	アミノペプチダーゼ			※	酵素	Aminopeptidase
15	$\alpha$ -アミラーゼ	液化アミラーゼ G3分解酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	$\alpha$ -Amylase
16	$\beta$ -アミラーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	$\beta$ -Amylase
17	L-アラニン		アラニン	※	調味料 強化剤	L-Alanine
18	アラビアガム (アカシアの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アカシアガム	アカシア	※	増粘安定剤	Gum Arabic Arabic Gum Acacia Gum
19	アラビノガラクトサン			マツ科セイヨウカラマツ ( <i>Larix occidentalis</i> NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温時水で抽出して得られたものである。成分は多糖類 (構成糖はガラクトース、アラビノース等) である。	増粘安定剤	Arabino galactan
20	L-アラビノース		アラビノース	※	甘味料	L-Arabinose
21	L-アルギニン		アルギニン	※	調味料 強化剤	L-Arginine
22	アルギン酸	昆布類粘質物		※	増粘安定剤	Alginate Acid
23	アルギン酸リアーゼ			※	酵素	Alginate Lyase

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
24	アルミニウム	アルミ末		<sup>27</sup> Al	着色料	Aluminium
25	アントシアナーゼ			※	酵素	Anthocyanase
26	イソアミラーゼ	枝切り酵素		※	酵素	Isoamylase
27	イソアルファー苦味酸 (ホップの花から得られた、イソフムロン類を主成分とするものをいう。)	イソアルファー酸	ホップ	※ (令和3年6月17日以前に製造され、加工され、又は輸入されるものについては、なお従前の例によることができる。)	苦味料等	Iso- $\alpha$ -bitter acid
28	イソマルトデキストラナーゼ			※ (令和3年1月14日以前に製造され、加工され、又は輸入されるものについては、なお従前の例によることができる。)	酵素	Isomaltodextranase
29	イナワラ灰抽出物 (イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) の茎又は葉を灰化したものより、室温時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Rice straw ash extract
30	イヌリナーゼ	イヌラーゼ		※	酵素	Inulinase
31	イノシトール	イノシット		「フィチン酸」を分解したものより、又はアカザ科サトウダイコン ( <i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER) の糖液又は糖蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。	強化剤	Inositol
32	インベルターゼ	サッカラーゼ シュークラーゼ スクラーゼ		※	酵素	Invertase
33	ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ウェラン多糖類		※	増粘安定剤	Welan Gum
34	ウコン色素 (ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)	クルクミン ターメリック色素	ウコン	※	着色料	Turmeric Oleoresin Curcumin
35	ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)			ウルシ科ウルシ ( <i>Rhus verniciflua</i> LINNE) の果実より、融解、さらして得られたものである。主成分はグリセリンパルミタートである。	ガムベース 光沢剤	Urushi Wax
36	ウレアーゼ		アミダーゼ	※	酵素	Urease
37	エキソマルトテトラオヒドロラーゼ	G4生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Exomaltotetraohydrolase
38	エステラーゼ			※	酵素	Esterase
39	エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、 $\beta$ -アミリンを主成分とするものをいう。)			カンラン科エレミ ( <i>Canarium luzonicum</i> A. GRAY.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分は $\beta$ -アミリンである。	増粘安定剤 ガムベース	Elemi resin
40	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)		塩水湖水ミネラル液	塩水湖の塩水を、天日蒸散により濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離し、残りの液体をろ過したものである。主成分はアルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類である。	調味料	Sodium chloride-decreased brine (saline lake)
41	オゾケライト	セレシン		ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC <sub>29</sub> ~C <sub>33</sub> の炭化水素である。	ガムベース	Ozokerite
42	オゾン			O <sub>3</sub>	製造用剤	Ozone
43	オリゴガラクトuron酸			「ペクチン」をペクチナーゼで酵素分解し、限外ろ過して得られたものであって、ガラクトuron酸の1~9量体の混合物からなる。	製造用剤	Oligogalacturonic acid
44	$\gamma$ -オリザノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルを主成分とするものをいう。)		オリザノール	※	酸化防止剤	$\gamma$ -Oryzanol
45	オレガノ抽出物 (オレガノの葉から得られた、カルバクロール及びチモールを主成分とするものをいう。)			シソ科オレガノ ( <i>Origanum vulgare</i> LINNE) の葉より、室温時~温時エタノール、含水エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。成分としてチモール及びカルバクロールを含む。	製造用剤	Oregano extract

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
46	オレンジ色素 (アマダイダイの果実又は果皮から得られた、カロテン及びキサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 果実色素	ミカン科アマダイダイ ( <i>Citrus sinensis</i> OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又は熱時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料	Orange colour
47	海藻灰抽出物 (褐藻類の灰化物から得られた、ヨウ化カリウムを主成分とするものをいう。)			褐藻類を焼成灰化したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はヨウ化カリウムである。	製造用剤	Seaweed ash extract
48	カオリン	白陶土	不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Kaolin
49	カカオ色素 (カカオの種子から得られた、アントシアニンの重合物を主成分とするものをいう。)	ココア色素	カカオ フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Cacao Color
50	カキ色素 (カキの果実から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		果実色素 フラボノイド フラボノイド色素	※ (令和3年1月14日以前に製造され、加工され、又は輸入されるものについては、なお従前の例によることができる。)	着色料	Japanese persimmon colour
51	花こう斑岩		麦飯石 不溶性鉱物性物質	花こう斑岩を洗浄、粉碎したものを、乾燥後、滅菌して得られたものである。	製造用剤	Granite porphyry
52	カシアガム (エビスグサモドキの種子を粉碎して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	カッシヤガム		マメ科エビスグサモドキ ( <i>Cassia tora</i> LINNE) の種子の胚乳部を、粉碎して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Cassia gum
53	カタラーゼ		オキシダーゼ	※	酵素	Catalase
54	活性炭 (含炭素物質を炭化し、賦活化して得られたものをいう。)			※	製造用剤	Active Carbon
55	活性白土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Activated Acid Clay
56	ガティガム (ガティノキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ガティ	※	増粘安定剤	Gum Ghatti
57	カテキン			ツバキ科チャ ( <i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の茎若しくは葉、マメ科ヘグアセンヤク ( <i>Acacia catechu</i> WILLD.) の幹枝又はアカネ科ガンビール ( <i>Uncaria gambir</i> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉より、乾留した後、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたもの、又は熱時水で抽出した後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得られたものである。成分はカテキン類である。	酸化防止剤	Catechin
58	カードラン (アグロバクテリウム又はアルカリゲネスの培養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とするものをいう。)		ブドウ糖多糖	※	増粘安定剤 製造用剤	Curdlan
59	カフェイン (抽出物) (コーヒーの種子又はチャの葉から得られた、カフェインを主成分とするものをいう。)		カフェイン	※	苦味料等	Caffeine (Extract)
60	カラギナン (イバラノリ、キリンサイ、ギンナンソウ、スギノリ又はツノマダの全藻から得られた、ι-カラギナン、κ-カラギナン及びλ-カラギナンを主成分とするものをいう。)	カラギーナン カラゲナン カラゲナン カラゲニン			増粘安定剤	Carrageenan
	加工ユーケマ藻類		ユーケマ	※		Semirefined Carrageenan Processed Eucheuma Algae Processed Red Algae
	精製カラギナン		紅藻抽出物	※		Purified Carrageenan Refined Carrageenan
	ユーケマ藻末		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属 ( <i>Eucheuma</i> ) の全藻を、乾燥、粉碎して得られたものである。		Powdered red algae
61	α-ガラクトシダーゼ	メリビアーゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	α-Galactosidase
62	β-ガラクトシダーゼ	ラクターゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	β-Galactosidase

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
63	カラシ抽出物 (カラシナの種子から得られた、イソチオシアン酸アシルを主成分とするものをいう。)		マスタード抽出物	※	製造用剤	Mustard Extract
64	カラメルⅠ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅡ」、「カラメルⅢ」及び「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel I (Plain caramel)
65	カラメルⅡ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel II (Sulfite caramel)
66	カラメルⅢ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel III (Ammonia caramel)
67	カラメルⅣ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel IV (Sulfite ammonia caramel)
68	カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		カラヤ	※	増粘安定剤	Karaya Gum
69	カルナウバロウ (ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セシルを主成分とするものをいう。)	カルナウバワックス	植物ワックス	※	ガムベース 光沢剤	Carnauba Wax Brazil Wax
70	カルボキシペプチダーゼ			※	酵素	Carboxypeptidase
71	カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)		カロブ カロブジャーム フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料 製造用剤	Carob Germ Color
72	カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものをいう。)	ローカストビーンガム	ローカスト	※	増粘安定剤	Carob Bean Gum Locust Bean Gum
73	カラワヨモギ抽出物 (カラワヨモギの全草から得られた、カピリンを主成分とするものをいう。)		カラワヨモギ	キク科カラワヨモギ ( <i>Artemisia capillaris</i> THUNB.) の全草より、室温時エタノール若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留して得られたものである。有効成分はカピリン等である。	保存料	Rumput roman extract
74	カンゾウ抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものをいう。)	カンゾウエキ グリチルリチン リコリス抽出物	カンゾウ カンゾウ甘味料 リコリス	※	甘味料	Licorice Extract
75	カンゾウ油性抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		油性カンゾウ	マメ科ウラルカンゾウ ( <i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ ( <i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ ( <i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根又は根茎を水で洗浄した残渣より、室温時～温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Licorice oil extract
76	カンデリラロウ (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアンコンタンを主成分とするものをいう。)	カンデリラワックス	植物ワックス	※	ガムベース 光沢剤	Candelilla Wax
77	キサンタンガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	キサンタン多糖類 ザンサンガム	キサンタン	※	増粘安定剤	Xanthan Gum
78	キシラナーゼ			※	酵素	Xylanase
79	D-キシロース		キシロース	※	甘味料	D-Xylose

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
80	キチナーゼ			※	酵素	Chitinase
81	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温時～温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した後、温時～熱時弱アルカリ性水溶液でタンパク質を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤	Chitin
82	キトサナーゼ			※	酵素	Chitosanase
83	キトサン			「キチン」を、温時～熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤 製造用剤	Chitosan
84	キナ抽出物 (アカキナの樹皮から得られた、キニジン、キニーネ及びシンコニン を主成分とするものをいう。)			アカネ科アカキナ ( <i>Cinchona succirubra</i> PAVON) の樹皮より、水又はエタノール等で抽出して得られたものである。有効成分はキニーネ、キニジン及びシンコニンである。	苦味料等	Redbark cinchona extract
85	キハダ抽出物 (キハダの樹皮から得られた、ベルベリンを主成分とするものをいう。)		キハダ	ミカン科キハダ ( <i>Phellodendron amurense</i> RUPR.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルベリンである。	苦味料等	Phellodendron bark extract
86	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニン を主成分とするものをいう。)	キラヤサポニン	サポニン	※	乳化剤	Quillaja Extract Quillaja Extract
87	金	金箔		<sup>197</sup> Au	着色料 製造用剤	Gold
88	銀	銀箔		<sup>107</sup> Ag, <sup>109</sup> Ag	着色料	Silver
89	グアーガム (グアーの種子から得られた、多糖類 を主成分とするものをいう。ただし、「グアーガム 酵素分解物」を除く。)	グアーフラワー グアルガム	グアー	※	増粘安定剤	Guar Gum
90	グアーガム酵素分解物 (グアーの種子を粉砕し、分解して 得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	グアーフラワー酵 素分解物 グアルガム酵素分 解物	グアー分解物	「グアーガム」を、酵素(α-ガラクトシダーゼ、ヘミセルラーゼ)で分解して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Enzymatically hydrolyzed guar gum
91	グアヤク脂 (ユソウボクの幹枝から得られた、 グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ- レジン を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク ( <i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の幹枝を、加熱して得られたものである。有効成分は、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジンである。	酸化防止剤	Guaiac resin Guaiac resin
92	グアヤク樹脂 (ユソウボクの分泌液から得られ た、α-グアヤコン酸及びβ-グアヤ コン酸 を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク ( <i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の分泌液を、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分はα-、β-グアヤコン酸である。	ガムベース	Guaiac resin (extract)
93	クエルセチン	ケルセチン	ルチン分解物	「ルチン(抽出物)」を、酵素又は酸性水溶液で加水分解して得られたものである。成分はクエルセチンである。	酸化防止剤	Quercetin
94	クチナシ青色素 (クチナシの果実から得られたイリ ドイド配糖体とタンパク質分解物の 混合物にβ-グルコシダーゼを添加し て得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	※	着色料	Gardenia Blue
95	クチナシ赤色素 (クチナシの果実から得られたイリ ドイド配糖体のエステル加水分解物 とタンパク質分解物の混合物にβ- グルコシダーゼを添加して得られた ものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	※	着色料	Gardenia Red
96	クチナシ黄色素 (クチナシの果実から得られた、ク ロシン及びクロセチンを主成分とす るものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 クチナシ クチナシ色素 クロシン	※	着色料	Gardenia Yellow
97	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得ら れた、アミリンアセタート及びポリ イソプレンを主成分とするものをい う。)			アカテツ科グッタハンカン ( <i>Palauquium leiocarpum</i> BOERL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソプレン及びアミリンアセタートである。	ガムベース	Gutta hang kang
98	グッタベルカ (グッタベルカの分泌液から得られ た、ポリイソプレンを主成分とする ものをいう。)			アカテツ科グッタベルカ ( <i>Palauquium gutta</i> BURCK.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソプレンである。	ガムベース	Gutta percha

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
99	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉碎乾燥、800～1200℃で焼成、又は塩酸処理して焼成したものである。	製造用剤	Cristobalite
100	グルカナナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	※	酵素	Glucanase
101	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Glucoamylase
102	グルコサミン			「キチン」を、塩酸で加水分解し、分離して得られたものである。成分はグルコサミンである。	増粘安定剤 製造用剤	Glucosamine
103	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		※	酵素	α-Glucosidase
104	β-グルコシダーゼ	ゲンチオビアーゼ セロビアーゼ		※	酵素	β-Glucosidase
105	α-グルコシルトランスフェラーゼ	4-α-グルカノトランスフェラーゼ 6-α-グルカノトランスフェラーゼ		※	酵素	α-Glucosyltransferase 4-α-Glucanotransferase 6-α-Glucanotransferase
106	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア (「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオンドを主成分とするものをいう。)	酵素処理ステビア	ステビア ステビア甘味料 糖転移ステビア	※	甘味料	α-Glucosyltransferase Treated Stevia
107	グルコースイソメラーゼ			※	酵素	Glucose Isomerase
108	グルコースオキシダーゼ			※	酵素	Glucose Oxidase
109	グルタミナーゼ		アミダーゼ	※	酵素	Glutaminase
110	L-グルタミン		グルタミン	※	調味料 強化剤	L-Glutamine
111	グレープフルーツ種子抽出物 (グレープフルーツの種子から得られた、脂肪酸及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)		グレープフルーツ種子	ミカン科グレープフルーツ ( <i>Citrus paradisi</i> MACF.) の種子より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラボノイドである。	製造用剤	Grapefruit seed extract
112	クローブ抽出物 (クローブのつぼみ、葉又は花から得られた、オイゲノールを主成分とするものをいう。)	クローブ抽出物	クローブ油	フトモモ科クローブ ( <i>Syzygium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ、葉又は花より、エタノール又はアセトンで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はオイゲノール等である。	酸化防止剤	Clove extract
113	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水エタノールで抽出して得られたものである。主成分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を呈する。	着色料	Chlorophylline
114	クロロフィル		葉緑素	※	着色料	Chlorophyll

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
115	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜して得られたものをいう。)	スモークフレーバー			製造用剤	Smoke flavourings
	木酢液			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、乾溜して得られたものである。		Wood vinegar Pyroligneous acid
	リキッドスモーク			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、限定された空気の下で、燃焼して発生したガス成分を捕集して得られたものである。		Liquid smoke
116	ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Diatomaceous Earth
117	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマロゲンチン及びゲンチオピクロシドを主成分とするものをいう。)			リンドウ科ゲンチアナ ( <i>Gentiana lutea</i> LINNE) の根又は根茎より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。有効成分はゲンチオピクロシド (ゲンチオピクリン) 及びアマロゲンチンである。	苦味料等	Gentian root extract
118	高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油脂を加水分解して得られたものをいう。)		脂肪酸	※ (令和3年6月17日以前に製造され、加工され、又は輸入されるものについては、なお従前の例によることができる。)	製造用剤	Higher fatty acid
119	香辛料抽出物 (アサノミ、アサフェチダ、アジョワン、アニス、アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オールスパイス、オレガノ、オレンジピール、カシウ、カシヤ、カモミール、カラシナ、カルダモン、カレーリーフ、カンゾウ、キヤラウエー、クチナシ、クミン、クレソン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サッサfras、サフラン、サボリー、サルビア、サンショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュニパーベリー、ショウガ、スターアニス、スペアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、ディール、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、パセリ、ハッカ、バニラ、パプリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」、「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン (抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	スパイス抽出物	香辛料 スパイス	アサノミ、アサフェチダ、アジョワン、アニス、アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オレガノ、オールスパイス、オレンジピール、カシウ、カシヤ、カモミール、カラシナ、カルダモン、カレーリーフ、カンゾウ、キヤラウエー、クチナシ、クミン、クレソン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サッサfras、サフラン、サボリー、サルビア、サンショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュニパーベリー、ショウガ、スターアニス、スペアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、ディール、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、パセリ、ハッカ、バニラ、パプリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」、「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン (抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	苦味料等	Spice extracts
120	酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られた、 $\alpha$ -グルコシルイソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)	糖転移イソクエルシトリン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	※	酸化防止剤	Enzymatically Modified Isoquercitrin
121	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、 $\alpha$ -グルコシルナリンジンを主成分とするものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加させたものである。有効成分は $\alpha$ -グルコシルナリンジンである。	苦味料等	Enzymatically modified naringin
122	酵素処理ヘスペリジン (「ヘスペリジン」にシクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものをいう。)	糖転移ヘスペリジン 糖転移ビタミンP	ヘスペリジン	※	強化剤	Enzymatically Modified Hesperidin
123	酵素処理ルチン (抽出物) (「ルチン (抽出物)」から得られた、 $\alpha$ -グルコシルルチンを主成分とするものをいう。)	糖転移ルチン (抽出物)	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	※	酸化防止剤 強化剤 着色料	Enzymatically Modified Rutin (Extract)

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
124	酵素処理レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジルグリセロールを主成分とするものをいう。)		レシチン	「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」とグリセリンの混合物に、ホスホリパーゼDを用いて得られたものである。主成分はホスファチジルグリセロールである。	乳化剤	Enzymatically modified lecithin
125	酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して得られた、グリチルレチン酸-3-グルクロニドを主成分とするものをいう。)		カンゾウ	※	甘味料	Enzymatically Hydrolyzed Licorice Extract
126	酵素分解リンゴ抽出物 (リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテキン類及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)		リンゴ抽出物 リンゴエキス	バラ科リンゴ ( <i>Malus pumila</i> MILLER) の果実を搾汁し、パルプを分離した後、得られた上清を酵素処理し、精製して得られたものである。有効成分はクロロゲン酸及びカテキン類である。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed apple extract
127	酵素分解レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものをいう。)		レシチン	※	乳化剤	Enzymatically Decomposed Lecithin
128	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		酵母細胞膜	※	増粘安定剤 製造用剤	Yeast Cell Wall
129	コウリヤン色素 (コウリヤンの種子から得られた、アピゲニジン及びルテオリニジン を主成分とするものをいう。)	キビ色素	フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Kaoliang Color
130	コチニール色素 (エンジムシから得られた、カルミン酸を主成分とするものをいう。)	カルミン酸色素	カルミン酸 コチニール	※	着色料	Cochineal Extract Carminic Acid
131	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カルシウムを主成分とするものをいう。)			※	製造用剤	Bone Charcoal
132	ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	ゴマ科ゴマ ( <i>Sesamum indicum</i> LINNE) の種子又は種子の搾油槽より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセサモリンである。	酸化防止剤	Sesame seed oil unsaponified matter
133	ゴマ柄灰抽出物 (ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)			ゴマ ( <i>Sesamum indicum</i> LINNE) の茎又は葉を灰化し、室温時水で抽出し、上澄み液をろ過して得られたものである。	製造用剤	Sesame straw ash extract
134	ゴム (バラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。ただし、「低分子ゴム」を除く。)	カウチョック		トウダイグサ科バラゴム ( <i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを酸性水溶液で凝固させ、水洗、脱水したのもより得られたものである。主成分はシスポリイソプレンである。	ゴムベース	Rubber
135	ゴム分解樹脂 (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテルペン及びテトラテルペンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科バラゴム ( <i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解したもの、又は酵素分解して得られた低分子の樹脂状物質である。主成分はC <sub>20</sub> ~C <sub>40</sub> のテルペノイドである。	ゴムベース	Resin of depolymerized natural rubber
136	コメヌカ油抽出物 (米ぬか油から得られた、フェラ酸を主成分とするものをいう。)	コメヌカ油不けん化物		※	酸化防止剤	Rice Bran Oil Extract
137	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかから得られた、フィチン酸及びペプチドを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はペプチド及びフィチン酸である。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed rice bran
138	コメヌカワックス (米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	コメヌカワックス ライスワックス	植物ワックス	イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油より、分離して得られたものである。主成分はリグノセリン酸ミリスルである。	ゴムベース 光沢剤	Rice bran wax
139	サイリウムシードガム (ブロードサイリウムの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	サイリウムハスク	サイリウム	※	増粘安定剤	Psyllium Seed Gum
140	サトウキビロウ (サトウキビの茎から得られた、バルミチン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	カーンワックス ケーンワックス	植物ワックス	イネ科サトウキビ ( <i>Saccharum officinarum</i> LINNE) の茎の搾汁残渣より、分離、精製して得られたものである。主成分はバルミチン酸ミリスルである。	ゴムベース 光沢剤	Cane wax
141	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アルテミシアシードガム サバクヨモギ種子 多糖類		キク科サバクヨモギ ( <i>Artemisia halodendron</i> TURCZ. ex BESS., <i>Artemisia ordosica</i> KRASCHEN., <i>Artemisia sphaerocephala</i> KRASCH) の種子の外皮を、脱脂、乾燥して得られたものである。主成分は、 $\alpha$ -セルロースを基本骨格に持つ、中性多糖類及び酸性多糖類である。	製造用剤 増粘安定剤	Artemisia sphaerocephala seed gum Artemisia seed gum
142	酸性白土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Acid Clay



番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
143	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステラーゼ		※	酵素	Acid Phosphatase
144	酸素			O <sub>2</sub>	製造用剤	Oxygen
145	シアノコバラミン	ビタミンB <sub>12</sub>	V. B <sub>12</sub>	※	強化剤	Cyanocobalamin
146	シエラック (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、アレウリチン酸とジェロール酸又はアレウリチン酸とジャロール酸のエステルを主成分とするものをいう。)	セラック		※	ガムベース 光沢剤	Shellac
	白シエラック		白セラック 白ラック	※		
	精製シエラック		精製セラック	※		
147	シエラックロウ (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ろう分を主成分とするものをいう。)	セラックロウ	セラックロウ	カイガラムシ科ラックカイガラムシ ( <i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エタノール又は温時アルカリ性水溶液に溶解し、ろ液からロウ分を分離して得られたものである。主成分は樹脂酸エステルである。	ガムベース 光沢剤	Shellac wax
148	ジェランガム (シュードモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ジェラン多糖類	ジェラン	※	増粘安定剤	Gellan Gum
149	ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ボンチアナック	ボンチアナック	キョウチクトウ科ジェルトン ( <i>Dyera costulata</i> HOOK F., <i>Dyera lowii</i> HOOK F.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Jelutong
150	シクロデキストリン	サイクロデキストリン 分岐サイクロデキストリン 分岐シクロデキストリン	環状オリゴ糖	デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキストリンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンである。	製造用剤	Cyclodextrin
151	シクロデキストリングルカノトランスフェラーゼ		トランスフェラーゼ	※	酵素	Cyclodextrin glucanotransferase
152	L-シスチン		シスチン	※	調味料 強化剤	L-Cystine
153	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス	シソエキス	シソ科シソ ( <i>Perilla crispa</i> TANAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したものから得られたものである。主成分はテルペノイドである。	製造用剤	Perilla extract
154	シタン色素 (シタンの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンダルウッド色素	サンダルウッド フラボノイド フラボノイド色素	マメ科シタン ( <i>Pterocarpus santalinus</i> LINNE) の幹枝より、水、熱時プロピレングルコール又は温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素はサンタリンである。紫赤色を呈する。	着色料	Sandalwood red
155	5'-シチジル酸		5'-CMP	※	強化剤	5'-Cytidylic Acid
156	ジャマイカカッシア抽出物 (ジャマイカカッシアの幹枝又は樹皮から得られた、クアシン及びネオクアシンを主成分とするものをいう。)	カッシアエキス	カッシア	ニガキ科ジャマイカカッシア ( <i>Quassia excelsa</i> SW.) の幹枝又は樹皮より、水で抽出して得られたものである。有効成分はクアシン及びネオクアシンである。	苦味料等	Jamaica quassia extract
157	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオール及びジンゲロールを主成分とするものをいう。)	ジンジャー抽出物	ジンジャー抽出物	ショウガ科ショウガ ( <i>Zingiber officinale</i> ROSC.) の根茎より、室温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はジンゲロール類及びショウガオール類である。	製造用剤	Ginger extract

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
158	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を主成分とするものをいう。)		焼成Ca		強化剤 製造用剤	Calcinated calcium
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	うに殻を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated sea urchin shell calcium
	貝殻焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	※		Calcinated Shell Calcium
	骨焼成カルシウム	骨カルシウム	骨Ca	※		Calcinated Bone Calcium
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イシサンゴ目の ( <i>Scleractinia</i> ) の造礁サンゴを、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated coral calcium
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム ホエイリン酸三カルシウム	乳清リン酸カルシウム 乳清リン酸Ca ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸Ca	乳清 (酸カゼインホエイ) より乳清タンパクと乳糖を分離、除去したものを、精製し焼成して得られたものである。主成分はリン酸三カルシウムである。		Tricalcium phosphate
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	※		Calcinated Eggshell Calcium
159	植物性ステロール (油糧種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	※	乳化剤	Vegetable Sterol
160	植物炭末色素 (植物を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	植物を、水蒸気賦活法で高温に加熱し炭化したものである。主色素は炭素である。黒色を呈する。	着色料	Vegetable carbon black
161	植物レシチン (アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		アブラナ科アブラナ ( <i>Brassica campestris</i> LINNE)、マメ科ダイズ ( <i>Glycine max</i> MERRILL) の種子より得られた油脂より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Vegetable lecithin
162	しらこたん白抽出物 (魚類の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものをいう。)	しらこたん白 しらこ分解物 プロタミン	核たん白 しらこ	※	保存料	Milt Protein
163	水素			H <sub>2</sub>	製造用剤	Hydrogen
164	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)	ステビアエキス ステビオシド レバウジオシド	ステビア ステビア甘味料	※	甘味料	Stevia Extract
165	ステビア末 (ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)		ステビア	キク科ステビア ( <i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉を、粉末としたものである。主甘味成分はステビオール配糖体 (ステビオシド及びレバウジオシド) である。	甘味料	Powdered stevia
166	スピルリナ色素 (スピルリナの全藻から得られた、フィコシアニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	※	着色料	Spirulina Color
167	スフィンゴ脂質 (米ぬかから得られた、スフィンゴシン誘導体を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子又は小麦 ( <i>Triticum aestivum</i> LINNE) の胚芽から得られた米ぬかより、室温時～温時エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したもので得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘導体である。	乳化剤	Sphingolipid
168	生石灰			※ (令和3年6月17日以前に製造され、加工され、又は輸入されるものについては、なお従前の例によることができる。)	製造用剤	Quicklime
169	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、グルコシルシナピルアルコールを主成分とするものをいう。)	精油除去フェンネル抽出物		セリ科ウイキョウ ( <i>Foeniculum vulgare</i> LINNE) の種子を水蒸気蒸留した残渣より、熱時水で抽出し、濃縮して得られたものである。主成分は4-O- $\alpha$ -D-グルコシルシナピルアルコールである。	酸化防止剤	Essential oil-removed fennel extract
170	セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、イソチオシアナートを主成分とするものをいう。)	ホーセラディッシュ抽出物		アブラナ科セイヨウワサビ ( <i>Armoracia rusticana</i> P. GAERTN., B. MEYER et SCHERB.) の根を、粉砕後、水蒸気蒸留で抽出して得られたものである。主成分はイソチオシアナートである。	酸化防止剤 製造用剤	Horseradish extract
171	ゼイン (トウモロコシの種子から得られた、植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トウモロコシたん白		イネ科トウモロコシ ( <i>Zea mays</i> LINNE) の種子を粉末化したものより、エタノール又はアセトンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はプロラミンに属する植物性タンパク質である。	製造用剤	Zein

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
172	ゼオライト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したゼオライトを精製して得られたものである。主成分は結晶性アルミノケイ酸塩である。	製造用剤	Zeolite
173	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノシン酸及びフェノール性ジテルペンを主成分とするものをいう。)			シソ科サルビア ( <i>Salvia officinalis</i> LINNE) の葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。有効成分はフェノール性ジテルペノイド (ジテルペン) 及びカルノシン酸である。	酸化防止剤	Sage extract
174	セピオライト			鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。	製造用剤	Sepiolite
175	L-セリン		セリン	※	調味料 強化剤	L-Serine
176	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	※	酵素	Cellulase
177	粗製海水塩化カリウム (海水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化カリウムを主成分とするものをいう。)			海水を、濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離させた後、そのろ液を、室温まで冷却し、析出分離させたものである。主成分は塩化カリウムである。	調味料	Crude potassium chloride (sea water)
178	粗製海水塩化マグネシウム (海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものをいう。)	塩化マグネシウム含有物		海水より、塩化ナトリウムを析出分離し、その母液を冷却して析出する塩化カリウム等を分離した残りのものである。主成分は塩化マグネシウムである。	製造用剤	Crude magnesium chloride (sea water)
179	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ ( <i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH.) の茎又は葉を灰化したものより、熱時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Buckwheat ash extract
180	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ペリージョ ペンダーレ レッチェカスピ		キョウチクトウ科ソルバ ( <i>Couma macrocarpa</i> BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。	ガムベース	Sorva Leche caspi
181	ソルビンハ (ソルビンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ソルバベケーニヤ		キョウチクトウ科ソルビンハ ( <i>Couma utilis</i> MUELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。	ガムベース	Sorvinha
182	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ ( <i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はサポニン (ソヤサポニン等) である。	乳化剤	Soybean saponin
183	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られた、タウマチンを主成分とするものをいう。)	ソーマチン		※	甘味料	Thaumatococin
184	タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	※	調味料	Taurine (Extract)
185	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、ケルセチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素 野菜色素	※	着色料	Onion Color
186	タマリンド色素 (タマリンドの種子から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Tamarind Color
187	タマリンドシードガム (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	※	増粘安定剤	Tamarind Seed Gum
188	タラガム (タラの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			※	増粘安定剤	Tara Gum
189	タルク		不溶性鉱物性物質	※	ガムベース 製造用剤	Talc
190	胆汁末 (胆汁から得られた、コール酸及びデソキシコール酸を主成分とするものをいう。)	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。主成分はコール酸及びデソキシコール酸である。	乳化剤	Powdered bile
191	単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱して得られたものをいう。)		糖・アミノ酸複合物	アミノ酸と単糖類の混合液を、常圧下で加熱して得られたものである。	酸化防止剤	Amino acid-sugar reaction product
192	タンナーゼ			※	酵素	Tannase

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
193	タンニン（抽出物） （カキの果実、五倍子、タラ末、没食子又はミモザの樹皮から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものをいう。）	タンニン酸（抽出物）	タンニン タンニン酸		製造用剤	Tannin (extract)
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ ( <i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の実より、搾汁したもの、又は水若しくはエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of persimmon
	植物タンニン			※		Vegetable Tannin
	ミモザタンニン			マメ科ミモザ ( <i>Acacia dealbata</i> LINNE) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of silver wattle
194	チクル （サボジラの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。）	クラウンガム チクブル ニスペロ		アカテツ科サボジラ ( <i>Achras zapota</i> LINNE) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものであり得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Chicle Chiquibul Crown gum Nispero
195	窒素			N <sub>2</sub>	製造用剤	Nitrogen
196	チャ乾留物 （チャの葉を乾留して得られたものをいう。）			ツバキ科チャ ( <i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶を、乾留して得られたものである。有効成分は特定できないが、アミノ酸、カフェイン、タンニン、カテキン類を含む。	製造用剤	Tea dry distillate
197	チャ抽出物 （チャの葉から得られた、カテキン類を主成分とするものをいう。）	ウーロンチャ抽出物 緑茶抽出物		ツバキ科チャ ( <i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶より、室温時、温時又は熱時、水、酸性水溶液、含水エタノール、エタノール、含水メタノール、メタノール、アセトン、酢酸エチル又はグリセリン水溶液で抽出したものであり得られたものである。成分としてカテキン類を含む。なお、チャの葉の処理方法によりウーロンチャ抽出物と呼ばれるものがある。	酸化防止剤 製造用剤	Tea extract
198	チルテ （チルテの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。）			トウダイグサ科チルテ ( <i>Cnidioscolus elasticus</i> LUNDELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶性成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Chilte
199	L-チロシン		L-チロジン チロシン チロジン	※	調味料 強化剤	L-Tyrosine
200	ツヌー （ツヌーの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。）			クワ科ツヌー ( <i>Castilla fallax</i> COOK) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものであり得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Tunu
201	ツヤブリシン（抽出物） （ヒバの幹枝又は根から得られた、ツヤブリシン類を主成分とするものをいう。）	ヒノキチオール （抽出物）	ヒノキチオール	※	保存料	Thujaplicin (Extract) Hinokitiol (Extract)
202	5'-デアミナーゼ			※	酵素	5'-Deaminase
203	低分子ゴム （パラゴムの分泌液を分解して得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。）			トウダイグサ科パラゴム ( <i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解して得られたもの、又は酵素分解して得られたものである。主成分はシスポリイソブレンである。	ガムベース	Depolymerized natural rubber
204	テオブロミン			アオギリ科カカオ ( <i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子、アオギリ科コーラ ( <i>Cola acuminata</i> SCHOTT et ENDL.) の種子又はツバキ科チャ ( <i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又はエタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はテオブロミンである。	苦味料等	Theobromine
205	デキストラナーゼ			※	酵素	Dextranase
206	デキストラン		ブドウ糖多糖	※	増粘安定剤	Dextran
207	鉄			<sup>54</sup> Fe, <sup>56</sup> Fe, <sup>57</sup> Fe, <sup>58</sup> Fe	強化剤 製造用剤	Iron
208	デュナリエラカロテン （デュナリエラの全葉から得られた、β-カロテンを主成分とするものをいう。）	藻類カロチン 藻類カロテン デュナリエラカロチン ドナリエラカロチン ドナリエラカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロテン カロテン色素	※	強化剤 着色料	Dunaliella Carotene

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
209	銅			<sup>63</sup> Cu, <sup>65</sup> Cu	製造用剤	Copper
210	トウガラシ色素 (トウガラシの果実から得られた、 カプサンチン類を主成分とするもの をいう。)	カプシカム色素 パプリカ色素	カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	※	着色料	Paprika Color Paprika Oleoresin
211	トウガラシ水性抽出物 (トウガラシの果実から抽出して得 られた、水溶性物質を主成分とする ものをいう。)	カプシカム水性抽 出物 パプリカ水性抽出 物	カプシカム抽出物 トウガラシ抽出物 パプリカ抽出物	ナス科トウガラシ ( <i>Capsicum annuum</i> LINNE) の 果実より、室温時含水エタノールで抽出したも ので、タンパク質、ペプチド、ビタミンCを含 む。	製造用剤	Capsicum water-soluble extract
212	動物性ステロール (魚油又は「ラノリン」から得られ た、コレステロールを主成分とする ものをいう。)	コレステロール	ステロール	※	乳化剤	Cholesterol
213	トコトリエノール			※	酸化防止剤	Tocotrienol
214	d-α-トコフェロール	α-ビタミンE	抽出V,E トコフェロール α-トコフェロール ビタミンE V,E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-α-Tocopherol
215	d-γ-トコフェロール	γ-ビタミンE	抽出V,E トコフェロール γ-トコフェロール ビタミンE V,E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-γ-Tocopherol
216	d-δ-トコフェロール	δ-ビタミンE	抽出V,E トコフェロール δ-トコフェロール ビタミンE V,E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-δ-Tocopherol
217	トマト色素 (トマトの果実から得られた、リコ ピンを主成分とするものをいう。)	トマトリコピン	カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 野菜色素	※	着色料	Tomato Color
218	トラガントガム (トラガントの分泌液から得られ た、多糖類を主成分とするものをい う。)		トラガント	※	増粘安定剤	Tragacanth Gum
219	トランスグルコシダーゼ			※	酵素	Transglucosidase
220	トランスグルタミナーゼ			※	酵素	Transglutaminase
221	トリプシン			※	酵素	Trypsin
222	トレハロース			担子菌 ( <i>Agaricus</i> 等)、細菌 ( <i>Arthrobacter</i> , <i>Brevibacterium</i> , <i>Pimelobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Thermus</i> 等) 又は酵母 ( <i>Saccharomyces</i> 等) の培 養液又は菌体より、水若しくはアルコールで 抽出して得られたもの、これを酵素によるでん 粉の糖化液より分離して得られたもの、又はマ ルトースを酵素処理して得られたものである。 成分はトレハロースである。	製造用剤	Trehalose
223	トレハロースホスホリラーゼ			※	酵素	Trehalose Phosphorylase
224	トロロアオイ (トロロアオイの根から得られた、 多糖類を主成分とするものをい う。)			アオイ科トロロアオイ ( <i>Abelmoschus manihot</i> MED.) の根を、乾燥、粉砕して得られたもの である。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Tororoaoi
225	納豆菌ガム (納豆菌の培養液から得られた、ポ リグルタミン酸を主成分とするもの をいう。)	納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	※	増粘安定剤 製造用剤	Bacillus Natto Gum
226	ナフサ	石油ナフサ		石油蒸留物を、精製して得られたものである。 成分はパラフィン系及びナフタレン系炭化水素 である。	製造用剤	Petroleum naphtha
227	生コーヒー豆抽出物 (コーヒーの種子から得られた、ク ロロゲン酸及びポリフェノールを主 成分とするものをいう。)			アカネ科コーヒー ( <i>Coffea arabica</i> LINNE) の 種子より、温時アスコルビン酸又はクエン酸 性水溶液で抽出して得られたものである。有効 成分は、クロロゲン酸及びポリフェノールであ る。	酸化防止剤	Coffee bean extract

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
228	ナリンギナーゼ	ナリンギナーゼ		※	酵素	Naringinase
229	ナリンジン	ナリンギン		※	苦味料等	Naringin
230	ニガークッタ (ニガークッタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ニガークッタ ( <i>Ficus platyphylla</i> DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Niger gutta
231	ニガヨモギ抽出物 (ニガヨモギの全草から得られた、セスキテルペンを主成分とするものをいう。)		ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ ( <i>Artemisia absinthium</i> LINNE) の全草より、水又は室温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセスキテルペン (アブシンチン等) である。	苦味料等	Absinth extract
232	ニッケル			<sup>58</sup> Ni, <sup>60</sup> Ni, <sup>61</sup> Ni, <sup>62</sup> Ni, <sup>64</sup> Ni	製造用剤	Nickel
233	ニンジンカロテン (ニンジンの根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	キャロットカロチン キャロットカロチン ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロテン色素	※	強化剤 着色料	Carrot Carotene
234	ばい煎コメスカ抽出物 (米ぬかから得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬかを脱脂し、ばい煎したものを、熱湯水で抽出後、温湯エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted rice bran extract
235	ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			マメ科ダイズ ( <i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を脱脂し、ばい煎したものを、熱湯水で抽出後、温湯エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted soybean extract
236	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ		※	酵素	Peroxidase
237	白金			<sup>192</sup> Pt, <sup>194</sup> Pt, <sup>195</sup> Pt, <sup>196</sup> Pt, <sup>198</sup> Pt	製造用剤	Platinum
238	パパイン			※	酵素	Papain
239	パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	パーム油カロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロテン色素	※	強化剤 着色料	Palm Oil Carotene
240	パーライト		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Perlite
241	パラジウム			<sup>102</sup> Pd, <sup>104</sup> Pd, <sup>105</sup> Pd, <sup>106</sup> Pd, <sup>108</sup> Pd, <sup>110</sup> Pd	製造用剤	Palladium
242	パラフィンワックス	パラフィン		※	ガムベース 光沢剤	Paraffin Wax
243	パンクレアチン			※	酵素	Pancreatin
244	ヒアルロン酸		ムコ多糖	鶏冠より、微温時～温湯水、アルカリ性水溶液若しくは酸性水溶液で抽出し、エタノール若しくは含水エタノールで処理、若しくは酵素処理した後エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたもの、又は細菌 ( <i>Streptococcus zooepidemicus</i> ) の培養液を、冷時～温湯時、除菌し、エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたものである。成分はヒアルロン酸である。	製造用剤	Hyaluronic acid
245	微結晶セルロース (パルプから得られた、結晶セルロースを主成分とするものをいう。)	結晶セルロース	セルロース	※	製造用剤	Microcrystalline Cellulose
246	微小繊維状セルロース (パルプ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	※	増粘安定剤 製造用剤	Microfibrillated Cellulose
247	L-ヒスチジン		ヒスチジン	※	調味料 強化剤	L-Histidine

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
248	ビートレッド (ビートの根から得られた、イソペ タニン及びペタニンを主成分とする ものをいう。)	アカビート色素	アカビート 野菜色素	※	着色料	Beet Red
249	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	※	調味料 強化剤	L-Hydroxyproline
250	ヒマワリ種子抽出物 (ヒマワリの種子から得られた、イ ソクロゲン酸及びクロゲン酸を 主成分とするものをいう。)	ヒマワリエキス ヒマワリ種子エキ ス ヒマワリ抽出物	ヒマワリ種子	キク科ヒマワリ ( <i>Helianthus annuus</i> LINNE) の 種子又は種子の搾油相より、熱時水又は含水エ タノールで抽出して得られたものである。有効 成分はイソクロゲン酸及びクロゲン酸である。	酸化防止剤	Sunflower seed extract
251	ひる石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、 洗浄した後、乾燥して得られたものである。主 成分はケイ酸塩である。	製造用剤	Vermiculite
252	ファーセララン (フルセラリアの全薬から得られ た、多糖類を主成分とするものをい う。)			ススカケベニ科フルセラリア ( <i>Furcellaria</i> <i>fastigiata</i> HUD.) の全薬より、熱時水又はアル カリ性水溶液で抽出して得られたものである。 主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Furcellaran
253	ファフィア色素 (ファフィアの培養液から得られ た、アスタキサンチンを主成分とす るものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	酵母 ( <i>Phaffia rhodozyma</i> MILLER) の培養液よ り、室温時アセトン、エタノール、含水エ タノール、ヘキサン又はこれらの混合液で抽出 し、溶媒を除去して得られたものである。主色 素はアスタキサンチンである。橙色～赤色を呈 する。	着色料	Phaffia colour
254	フィシン	ファイシン		※	酵素	Ficin
255	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	※	酵素	Phytase
256	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子か ら得られた、イノシトールヘキサリ ン酸を主成分とするものをいう。)			※	酸味料 製造用剤	Phytic Acid
257	フィチン (抽出物) (米ぬか又はトウモロコシの種子か ら得られた、イノシトールヘキサリ ン酸マグネシウムを主成分とするも のをいう。)		フィチン	イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より 得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ ( <i>Zea</i> <i>mays</i> LINNE) の種子より、室温時水で抽出して 得られたものである。主成分はイノシトールヘ キサリン酸マグネシウムである。	製造用剤	Phytin (extract)
258	フェルラ酸			※	酸化防止剤	Ferulic Acid
259	フクロノリ抽出物 (フクロノリの全薬から得られた、 多糖類を主成分とするものをい う。)		フクロノリ多糖類 フクロノリ多糖類 フクロノリ抽出物	※	増粘安定剤	Fukuronori Extract
260	ブタン			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点 付近の留分である。	製造用剤	Butane
261	ブドウ果皮色素 (アメリカブドウ又はブドウの果皮 から得られた、アントシアニンを主 成分とするものをいう。)	エノシアニン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	※	着色料	Grape Skin Color Grape Skin Extract
262	ブドウ果皮抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの果皮 から得られた、ポリフェノールを主 成分とするものをいう。)			ブドウ科アメリカブドウ ( <i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ ( <i>Vitis vinifera</i> LINNE) のうち、生食用又は醸造用ブドウの甲 州、シャルドネ若しくはリースリング種の果皮 搾粕より、室温時～微温時エタノールで抽出し て得られたものである。主成分はポリフェノ ールである。	製造用剤	Grape skin-derived substance
263	ブドウ種子抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの種子 から得られた、プロアントシアニ ジンを主成分とするものをいう。)		プロアントシアニ ジン	※	酸化防止剤 製造用剤	Grape Seed Extract
264	ブラジルカンゾウ抽出物 (ブラジルカンゾウの根から得られ た、ベリアンドリンを主成分とする ものをいう。)	ベリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ ( <i>Periandra dulcis</i> MART.) の根より、水で抽出したのより得られ たものである。甘味成分はベリアンドリンであ る。	甘味料	Brazilian licorice extract
265	フルクトシルトランスフェラーゼ			※	酵素	Fructosyl Transferase
266	プルラナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Pullulanase
267	プルラン			※	増粘安定剤 製造用剤	Pullulan
268	プロテアーゼ	たん白分解酵素		※	酵素	Protease
269	プロパン			石油若しくは天然ガス成分中、n-プロパンの沸 点付近の留分である。	製造用剤	Propane

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
270	プロポリス抽出物 (ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)			ミツバチ科ミツバチ ( <i>Apis mellifera</i> LINNE, <i>Apis indica</i> RODOSZKOWSKI) の巣より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Propolis extract
271	ブロメライン		ブロメリン	※	酵素	Bromelain
272	L-プロリン		プロリン	※	調味料 強化剤	L-Proline
273	分別レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミエリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。)	レシチン分別物 レシチン		「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」より、室温時～温時メタノール、エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルコリン、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。	乳化剤	Fractionated lecithin Cephalin Lipoinositol
274	粉末セルロース (バルブを分解して得られた、セルロースを主成分とするものをいう。ただし、「微結晶セルロース」を除く。)		セルロース	※	製造用剤	Powdered Cellulose
275	粉末モミガラ (イネのもみ殻から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ ( <i>Oryza sativa</i> LINNE) のもみ殻を、微粉砕して得られたものである。主成分はセルロースである。	ガムベース	Powdered rice hulls
276	ペカンナッツ色素 (ペカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)	ピーカンナッツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン ( <i>Carya pecan</i> ENGL. et GRAEBN.) の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。	着色料	Pecan nut colour
277	ヘキサン			※	製造用剤	Hexane
278	ペクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	※	酵素	Pectinase
279	ペクチン			※	増粘安定剤	Pectin
280	ペクチン分解物 (「ペクチン」から得られた、ガラクトクチュロン酸を主成分とするものをいう。)		分解ペクチン	※	保存料	Pectin Digests
281	ヘスペリジンナーゼ			※	酵素	Hesperidinase
282	ヘスペリジン	ビタミンP		※	強化剤	Hesperidin
283	ベタイン			※	調味料	Betaine
284	ベニコウジ黄色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、キサントモナスン類を主成分とするものをいう。)	モナスカス黄色素	紅麹 紅麹色素 モナスカス モナスカス色素	※	着色料	Monascus Yellow
285	ベニコウジ色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、アンカフラビン及びモナスコルブリンを主成分とするものをいう。)	モナスカス色素	紅麹 モナスカス	※	着色料	Monascus Color
286	ベニバナ赤色素 (ベニバナの花から得られた、カルタミンを主成分とするものをいう。)	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花赤 紅花色素	※	着色料	Carthamus Red
287	ベニバナ黄色素 (ベニバナの花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものをいう。)	カーサマス黄色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花黄 紅花色素	※	着色料	Carthamus Yellow
288	ベネズエラチクル (ベネズエラチクルの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	カプーレ		アカテツ科ベネズエラチクル ( <i>Manilkara williamsii</i> STANDL.) の幹枝より得られるラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Venezuelan chicle
289	ペプシン			※	酵素	Pepsin
290	ヘプタン			石油成分中、n-ヘプタンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Heptane
291	ペプチダーゼ			※	酵素	Peptidase



番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
292	ヘマトコッカス藻色素 (ヘマトコッカスの全藻から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	※	着色料	Haematococcus Algae Color
293	ヘミセルラーゼ	ペントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	Hemicellulase
294	ヘム鉄			※	強化剤	Heme Iron
295	ヘリウム			<sup>4</sup> He	製造用剤	Helium
296	ベントナイト		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Bentonite
297	ホスホジエステラーゼ			※	酵素	Phosphodiesterase
298	ホスホリパーゼ	ホスファチダーゼ レシチナーゼ		※	酵素	Phospholipase
299	没食子酸				酸化防止剤	Gallic acid
300	ホホバロウ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコセニルを主成分とするものをいう。)	ホホバワックス			増粘安定剤	Jojoba wax
301	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		※	酵素	Polyphenol Oxidase
302	ε-ポリリシン	ε-ポリリジン	ポリリジン	※	保存料	ε-Polylysine
303	マイクロクリスタリンワックス	マイクロクリスタリンワックス		※	ガムベース 光沢剤	Microcrystalline Wax
304	マクロホモプシスガム (マクロホモプシスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	マクロホモプシス 多糖類		※	増粘安定剤	Macrophomopsis Gum
305	マスチック (ヨウニュウコウの分泌液から得られた、マスチカジエノン酸を主成分とするものをいう。)				ガムベース	Mastic gum
306	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)				ガムベース	Massaranduba chocolate
307	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)				ガムベース	Massaranduba balata
308	マリーゴールド色素 (マリーゴールドの花から得られた、キサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 マリーゴールド	※	着色料	Marigold Color
309	マルトースホスホリラーゼ			※	酵素	Maltose Phosphorylase
310	マルトトリオヒドラーゼ	G3生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Maltotriohydrolase
311	未焼成カルシウム (貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分とするものをいう。)		未焼成Ca		強化剤	Non-calcinated calcium
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca			Non-calcinated shell calcium
	骨未焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca			Non-calcinated bone calcium

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
	サンゴ末焼成カルシウム	コーラルカルシウム サンゴカルシウム	コーラルCa サンゴCa	※		Non-calcinated Coral Calcium
	真珠層末焼成カルシウム		真珠層カルシウム 真珠層Ca	ウグイスガイ科アコヤガイ ( <i>Pinctada fucata</i> ) から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated mother-of-pearl layer calcium
	卵殻末焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated eggshell calcium
312	ミックストコフェロール (植物性油脂から得られた、d- $\alpha$ -トコフェロール、d- $\beta$ -トコフェロール、d- $\gamma$ -トコフェロール及びd- $\delta$ -トコフェロールを主成分とするものをいう。)	ミックスビタミンE	抽出V.E トコフェロール ビタミンE V.E ミックスV.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	Mixed Tocopherols
313	ミツロウ (ミチバチの巣から得られた、パルミチン酸ミリシルを主成分とするものをいう。)	オウロウ ビースワックス ベースワックス		※	ガムベース 光沢剤	Bees Wax
314	ミルラ (ボツヤクの分泌液から抽出して得られたものをいう。)	ミル		カンラン科ボツヤク ( <i>Commiphora mukul</i> ENGL.) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、室温時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。成分としてコミホールを含む。	ガムベース	Myrrh
315	ムラサキイモ色素 (サツマイモの塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシド及びペオニジンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	※	着色料	Purple Sweet Potato Color
316	ムラサキトウモロコシ色素 (トウモロコシの種子から得られた、シアニン-3-グルコシドを主成分とするものをいう。)	ムラサキコーン色素	アントシアニン アントシアニン色素	※	着色料	Purple Corn Color
317	ムラサキヤマイモ色素 (ヤマイモの塊根から得られた、シアニンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 ムラサキヤマイモ野菜色素	ヤマノイモ科ヤマイモ ( <i>Dioscorea alata</i> LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。	着色料	Purple yam colour
318	ムラミダーゼ			※	酵素	Muramidase
319	メナキノン (抽出物) (アルトバクターの培養液から得られた、メナキノン-四を主成分とするものをいう。)	ビタミンK <sub>2</sub> (抽出物)	ビタミンK <sub>2</sub> ビタミンK V. K <sub>2</sub> V. K メナキノン	※	強化剤	Menaquinone (Extract) Vitamin K <sub>2</sub> (Extract)
320	メバロン酸			酵母 ( <i>Saccharomyces fibuligera</i> ) によるコースチーフリカー又はカゼイン由来のペプトンを主原料とする発酵培養液より、有機溶剤で抽出して得られたものである。成分はメバロン酸である。	製造用剤	Mevalonic acid
321	メラロイカ精油 (メラロイカの葉から得られた、精油を主成分とするものをいう。)			フトモモ科メラロイカ ( <i>Melaleuca alternifolia</i> CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたものである。成分は精油 ( $\alpha$ -テルピネン及び $\gamma$ -テルピネン等) である。	酸化防止剤	Melaleuca oil
322	モウソウチク乾留物 (モウソウチクの茎を乾留して得られたものをいう。)		竹乾留物	イネ科モウソウチク ( <i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎をチップ状にしたものを、減圧加熱下で乾留したものとより得られたものである。	製造用剤	Mousouchiku dry distillate
323	モウソウチク抽出物 (モウソウチクの茎の表皮から得られた、2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするものをいう。)			イネ科モウソウチク ( <i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎の表皮を、粉砕したものとより、微温時エタノールで抽出して得られたものである。成分として2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを含む。	製造用剤	Mousouchiku extract
324	木材チップ (ハシバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られたものをいう。)	シュベアーネ		カバノキ科ハシバミ ( <i>Corvus heterophylla</i> FISCHER var. <i>thunbergii</i> BLUME) 又はブナ科ブナ ( <i>Fagus crenata</i> BLUME) の幹枝を熱水殺菌したものを、粉砕して得られたものである。	製造用剤	Wood chip
325	木炭 (竹材又は木材を炭化して得られたものをいう。)			イネ科マダケ ( <i>Phyllostachys bambusoides</i> SIEB. et ZUCC.) 若しくはイネ科モウソウチク ( <i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎又はカバノキ科シラカバ ( <i>Betula platyphylla</i> SUKAT. var. <i>japonica</i> HARA)、チョウセンマツ ( <i>Pinus koraiensis</i> SIEB. et ZUCC.)、ブナ科ウバメガシ ( <i>Quercus phylliraeoides</i> ) 等の幹枝又は種子を、炭化して得られたものである。	製造用剤	Charcoal
326	モクロウ (ハゼノキの果実から得られた、グリセリンバルミタートを主成分とするものをいう。)	日本ロウ ハゼ脂	植物ワックス	キクウルシ科ハゼノキ ( <i>Rhus succedanea</i> LINNE) の果実より、融解、さらしたものとより得られたものである。主成分はグリセリンバルミタートである。	カムベース	Japan wax

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
327	木灰 (竹材又は木材を灰化して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ ( <i>Fagus crenata</i> BLUME) 等の幹枝を、灰化して得られたものである。	製造用剤	Timber ash
328	木灰抽出物 (「木灰」から抽出して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ ( <i>Fagus crenata</i> BLUME)、クスノキ科クスノキ ( <i>Cinnamomum Camphora</i> SIEB.) 等の幹枝を灰化して得られた灰化物を、精製して得られたものである。	製造用剤	Timber ash extract
329	モモ樹脂 (モモの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ピーチガム	バラ科モモ ( <i>Prunus persica</i> BATSCH) の幹枝の樹脂成分を、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Peach gum
330	ヤマモモ抽出物 (ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものをいう。)			※	酸化防止剤	Chinese Bayberry Extract
331	ユッカフォーム抽出物 (ユッカアラボレンス又はユッカシジガラ全草から得られた、サポニン主成分とするものをいう。)	ユッカ抽出物	ユッカフォーム ユッカ・フォーム	※	乳化剤 製造用剤	Yucca Foam Extract
332	ラカンカ抽出物 (ラカンカの果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものをいう。)	ラカンカエキス	ラカンカ	※	甘味料	Luohanguo Extract
333	ラクトパーオキシダーゼ			※	酵素	Lactoperoxidase
334	ラクトフェリン濃縮物 (ほ乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを主成分とするものをいう。)		ラクトフェリン	※	製造用剤	Lactoferrin Concentrates
335	ラック色素 (ラックカイガラシの分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものをいう。)	ラッカイン酸	ラック	※	着色料	Lac Color
336	ラノリン (ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールと $\alpha$ -ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		※	ガムベース 光沢剤	Lanolin
337	ラムザンガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ラムザン多糖類	ラムザン	※	増粘安定剤	Rhamsan Gum
338	L-ラムノース		ラムノース	※	甘味料	L-Rhamnose
339	卵黄レシチン (卵黄から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		卵黄より得られた卵黄油より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Yolk lecithin
340	L-リジン	L-リジン	リジン リジン	※	調味料 強化剤	L-Lysine
341	リゾチーム	卵白リゾチーム		※	酵素	Lysozyme
342	リパーゼ	脂肪分解酵素	エステラーゼ	※	酵素	Lipase
343	リポキシゲナーゼ	リポキシダーゼ		※	酵素	Lipoxygenase
344	D-リボース		リボース	※	甘味料	D-Ribose
345	流動パラフィン	ミネラルオイルホワイト	パラフィン	※	製造用剤	Liquid Paraffin
346	リンターセルロース (ワタの単毛から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	アオイ科ワタ ( <i>Gossypium hirsutum</i> LINNE) の実の単毛を、精製して得られたものである。主成分はセルロースである。	製造用剤	Linter cellulose
347	ルチン酵素分解物 (「ルチン(抽出物)」から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	※	酸化防止剤	Enzymatically Decomposed Rutin
348	ルチン(抽出物) (アズキの全草、エンジュのつぼみ若しくは花又はツバの全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド ルチン		酸化防止剤 着色料	Rutin (extract)
	エンジュ抽出物			※		Enju Extract Japanese Pagoda Tree Extract

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
	アズキ全草抽出物			マメ科アズキ ( <i>Azukia angularis</i> OHWI) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。		Azuki extract
	ソバ全草抽出物			タデ科ソバ ( <i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。		Buckwheat extract
349	ルテニウム			<sup>96</sup> Ru, <sup>98</sup> Ru, <sup>99</sup> Ru, <sup>100</sup> Ru, <sup>101</sup> Ru, <sup>102</sup> Ru, <sup>104</sup> Ru	製造用剤	Ruthenium
350	レイシ抽出物 (マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ ( <i>Ganoderma lucidum</i> KARST.) の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。	苦味料等	Mannentake extract
351	レッチェデバカ (レッチェデバカの分泌液から得られた、アミリンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチェデバカ ( <i>Brosimum utile</i> (H.B.K) PITT.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。	ガムベース	Leche de vaca
352	レンネット	キモシン レンニン		※	酵素	Rennet
353	L-ロイシン		ロイシン	※	調味料 強化剤	L-Leucine
354	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシリンを主成分とするものをいう。)			マメ科ログウッド ( <i>Haematoxylon campechianum</i> ) の心材より、熱時水で抽出して得られたものである。主色素はヘマトキシリンである。黒褐色を呈する。	着色料	Logwood colour
355	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属 ( <i>Sideroxylon</i> ) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。	ガムベース	Rosidinha
356	ロジン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を主成分とするものをいう。)	ロジン		マツ科マツ ( <i>Pinus palustris</i> MILL.) の樹皮の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去して得られたものである。主構成成分はアビエチン酸である。	ガムベース	Rosin
357	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カルノシン酸、カルノソール及びロスマノールを主成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ ( <i>Rosmarinus officinalis</i> LINNE) の葉又は花より、二酸化炭素、温時～熱時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時ヘキサン、メタノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。有効成分は、フェノール性ジテルペノイド (ロスマノール、カルノソール及びカルノシン酸等) である。	酸化防止剤	Rosemary extract

※食品、添加物等の規格基準 (昭和34年厚生省告示第370号) 第2 添加物の部D成分規格・保存基準各条の規定に従う。

なお、組換えDNA技術によって得られた生物を利用して製造された添加物の場合は、厚生労働大臣が定める安全性審査の手続を経た旨が公表されていなければならない。